

## 平成28年度 第1回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日時】 平成28年6月6日(月) 午後3時00分～5時00分

【場所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 (委員) 高橋 義雄 (筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授)《会長》  
熊谷 謙蔵 (豊田市区長会)  
兵藤 おさみ (豊田市スポーツ推進委員協議会 副会長)  
藪押 光市 (豊田商工会議所 事務局長)  
本多 重之 ((一社)豊田青年会議所 LOM 政策協議会議長)  
徳田 康 ((公財)愛知県サッカー協会 専務理事)  
徳増 年彦 ((株)豊田スタジアム 取締役事業推進部部長)  
里園 友紀 (エフエムとよた(株) ラジオラヴィートパーソナリティ)  
北垣 啓子 (公募委員)  
松尾 貴光 (中京大学 執行役員企画局長)  
中井 久美 (豊田まちづくり(株) まちづくり推進部次長)  
廣瀬 佳司 (トヨタ自動車(株)人事部 トヨタスポーツ強化グループ主幹)

【欠席者】 (委員) 勝亦 紘一 ((公財)豊田市体育協会 副会長)  
桑田 厚司 (愛知県ラグビーフットボール協会 理事長)  
町田 淳 ((株)名古屋グランパスエイト マーケティング部部長)

【事務局】 福嶋 兼光 (教育長) 宮川 龍也 (教育行政部長)  
大谷 哲也 (教育行政部副部長) 前田 雄治 (経営戦略室政策監)  
田中 茂樹 (経営戦略室政策監) 西脇 委千弘 (経営戦略室副参事)  
杉山 寿美雄 (スポーツ課長) 後藤 直樹 (スポーツ課副課長)  
畔柳 隆二 (スポーツ課担当長) 太田 信人 (スポーツ課担当長)  
小石 拓也 (スポーツ課主事) 深谷 康史 (経営戦略室副主幹)  
山内 康資 (商業観光課担当長)

【傍聴人】 2人

【次第】 1 会長あいさつ  
2 委嘱状交付  
3 新任委員自己紹介  
4 教育委員会あいさつ  
5 議題 スポーツコミッションの検討について  
(1) 豊田市スポーツコミッションの方向性(資料1)  
(2) 豊田市スポーツコミッションの活動イメージについて(資料2)  
6 その他

## ■会長あいさつ

平成 28 年度第 1 回目のスポーツ推進審議会、改めましてよろしくお願い致します。

私が委員を務めている、スポーツ庁の未来開拓会議の取りまとめがもうしばらくすると公表されると思います。スポーツ庁長官が何年も言い続けている、「スポーツで稼ぐ」「体育からスポーツへ」という言葉をキーメッセージに国が急激なスピードで動き始めています。スポーツ GDP を現在の 5.5 兆円から 15 兆円規模の産業に発展させるということが自民党のスポーツ立国調査会で議論されています。

大学スポーツ資源の産業化については、馳大臣のもと、高等教育局長、スポーツ庁次長、私立大学協会会長、日体大・体育系大学の会長である松浪先生、鹿屋体育大学福永学長などを委員とした会議の第 1 回目が開催されました。そこでは大学のスポーツの試合をアメリカの大学のように、チケットを売り、より活性化をしていくべきだという議論が行われました。

豊田市は、中京大学があり、実業団レベルでもトップのコンテンツを有しており、産業化について、より具体的に進めて行く話がスポーツ庁から来るのではないかと考えています。

また、IT を使った健康スポーツの分野が非常に盛んになってきており、ウォーキングの歩数表示やその結果など使って健康管理するといったものから、歩数に応じた punta ポイントを付与するといった実験なども行われており、様々な企業との連動が始まっています。

昨年まで行ってきたスポーツコミッションの議論を、皆様よりご意見を頂いて、より具体的に、より良いものにできればと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

## ■新任委員あいさつ

前回の審議会に出席させていただいておりましたので、内容につきましてはある程度把握しているつもりです。

中京大学の企画局の中にスポーツ振興部という部があり、豊田市とは様々な場面に関わりを持ってたらと考えております。今週の木曜日にスポーツ庁の鈴木長官が本学に来られ、公開講座を開く予定をしております。このようなイベントを通じて、豊田市と協力体制を組んでいきたいと考えています。

## ■教育長あいさつ

本年度、第 1 回目のスポーツ推進審議会の開催に際し、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

ご承知のように、スポーツコミッションについて協議したいと昨年度にスポーツ推進審議会のメンバーを一新し、新しい体制で進めて参りました。昨年度の内に、スポーツコミッションの方向性についてご検討いただきましたので、これをさらに具体化することを進めて行きたいと考えております。

先週の金曜日に豊田スタジアムでサッカー日本代表の試合がございました。7-2 での快勝でしたが、スピード、正確性、常に全体を見て瞬時に判断するという動きを見ていて、さすが日本代表だなと思いました。4 万 5 千人収容の会場に対して、4 万 2 千人入ったわけですが、一流の試合を誘致すれば、人が集まって、経済効果につながるのだなと感じました。豊田スタジアムに加えてスカイホールなどもあり、豊田市は環境に非常に恵まれているため、ぜひ豊田市および周辺地域全体の活性化につなげていきたいと考えています。

2019年にはラグビーワールドカップ、2020年には東京オリンピックが開催されるというの  
はご存じだと思います。昨年度まで組織的には教育委員会のスポーツ課が所管をしておりまし  
たが、本年度からは国際的なスポーツイベントについては市長直轄の経営戦略室に移り、国際  
まちづくり推進課が担当しております。本日も国際まちづくり推進課の担当職員が来ておりま  
すが、今後、スポーツ課との連携を進めて参ります。また、本日の資料に記載がございますが、  
観光協会の在り方についても議論をしている途中であり、スポーツコミッションとも大きく関  
連してくる内容であり、委員の皆様には情報提供しつつ、また一年間、ご支援いただけたらと存  
じますのでよろしくお願い致します。

## 【会議録（議題部分のみ）】

### ■議題（1）豊田市スポーツコミッションの方向性

事務局：資料に基づき説明（資料1）

会 長：昨年度まとめたものを再度確認の意味で事務局より説明しました。説明事項についてご意見ご  
質問等ございましたらお受けしたいと思います。

委 員：5ページの「アウトドアスポーツのメッカへ」は、「アウトドアスポーツの聖地へ」に変更して  
はどうでしょうか。

事務局：修正したいと思います。

会 長：資料1では、「国際水準の大規模施設の利用促進」、「都市部と中山間地域が連携した受入態勢の  
整備」、「スポーツを通じた中山間地域の交流人口の拡大」という3つの柱を打ち出し、ラグビ  
ーワールドカップ2019等のイベントを踏まえて大きく2つの時期にわけて活動を進めていく  
ということを、説明しました。

### ■議題（2）豊田市スポーツコミッションの活動イメージについて

事務局：資料に基づき説明（資料2）

会 長：これまでの日本の大型のスポーツイベントは広告代理店やテレビ局がプランを作り、大会を開  
催する都市の自治体関係者に話をするという流れが大半であったと思われませんが、競技団体、  
自治体が主体となって行う例はあまりなかったと考えています。スポーツコミッションには、  
地域の人たちが自らアイデア・組合せを考え、スポーツを地域振興に活用していこうという発  
想が含まれ、従来とは異なる考え方になります。スポーツコミッションはより良い豊田市を目  
指すためにあるので、様々なアイデアを議論できればと思います。説明事項について何か意見、  
質問等はあるでしょうか。

委 員：非常にまとまった資料であり、個人的には内容についておおむね賛成です。ただ、2019ラグビ  
ーワールドカップまで残り3年であり、来年度からの立ち上げではたして間に合うのかが疑問  
です。また、スポーツコミッションとは、当審議会だけではなく、地域の皆様が同じような問  
題意識の共有をして取組んでいくべき課題であるため、その意識の醸成も含めて考えるとスピ  
ード感に欠けるスケジュールであると思います。一部、前倒ししながら早く取組んでいくのは  
どうでしょうか。

会 長：審議会の意見を市長に提言し、議会での了解を経てからのスポーツコミッション立ち上げにな  
ると思いますが、先ほどの委員のご指摘に対して事務局はどのように考えていますか。

事務局：提言書にまとめる内容としては概念的なものや組織体制を想定していますが、それとは別に、

ラグビーワールドカップ 2019 に向けた具体的な取組みについて個々で検討を進めています。

会 長：ラグビーワールドカップ 2019 に向けた具体的事項の進展状況や連動状況について、委員が把握をしていないため、情報を整理開示してほしいです。

事務局：現時点でそのような資料はありませんが、全体を網羅した内容を見える化して今後情報提供していきます。

会 長：スポーツイベント当日、試合当日だけに注視しがちですが、その前後で行われるイベントについての提言や各団体の連携などスポーツコミッションは何をしなければならぬのか、より広いイメージを持って考えていく必要があると思います。

委 員：サッカー協会では、今までは現場の指導者、審判の育成に励んできました。その一方で、スポーツ組織、スポーツ文化を考えながら組織を運営することができる人間をあまり育ててきませんでした。現在はその点に重要性があると感じています。

2005 年からはスポーツマネージャーズカレッジを立ち上げ、全国で 1000 人ほどの修了生を輩出し、技術強化に関しての実績を重ねてきましたが、組織をどう動かすかということに習熟した人材が不足しています。今後はそのような人材の育成に関して意見を交わし、アイデアを出していくことが必要だと考えています。

会 長：スポーツ庁でもスポーツマネジメント事業ということがひとつのテーマになっています。たとえば、中京大学の協力で、スポーツに関する専門用語の勉強会を豊田市が開催することや、スポーツ人材認定資格を発行するなどといったことが考えられると思います。スポーツ協会の中で、サッカー協会は特に進んでいるので、そこに習うような形にしたらいのではないかと思います。

委 員：アメリカと日本のスポーツビジネスの決定的な違いはお金を稼げているかどうかには尽きると思います。カレッジスポーツのひとつであるアメリカンフットボールに関しては、大学ごとに大きな球場があるなど、かなりのお金を稼いでおり、日本もそのようにスポーツビジネスを展開していくことがあるべき姿ではないのかという議論があります。豊田市にはその素地がそろっており、スポーツで稼げて皆が幸せになる仕組みが必要だと思います。技術に関しての人材育成は進んでいるように思いますが、スポーツに関してビジネスマネジメントができる人材は非常に少なく、その人材育成を含めた将来像を持って取組みを進めれば、豊田市はスポーツ分野において日本で 1 番の自治体になれるのではないかと思います。

会 長：大学スポーツの在り方が変われば、学生を取り巻く環境も変わると思います。ほかに意見はありますか。

委 員：スポーツコミッションをどこが運営をするかが重要だと思います。各団体のつなぎ役になるにあたり、公平性を持つだけでは務まらないため、市役所では難しいと思います。また、スポーツコミッションの立ち上げ後、ゆくゆくは補助金なしに自分たちだけで運営ができるようになる必要があります。

会 長：日本では、スポーツコミッション立ち上げの事例はまだ少なく、民間企業ではリスクの問題から難しいかもしれないと感じます。スタートは行政が主体となってやる必要があるのではないのでしょうか。

委 員：資料の活動例に“とよたウエルカムプラザを中心とした情報提供”とありますが、これを誰がやるのでしょうか。実際に今でも豊田市内に観光情報はありますが、問題はその情報を誰がどのように伝えるかという点だと思います。

先日、スポーツボランティアの育成に向けたプログラムを2019年に向けて取り組みたいとの相談がありましたが、来街者へのおもてなしのために情報を発信していくということが大切だと考えています。豊田に愛着があり、それを気持ちで伝えることができるような人材を育てていくことが豊田市への来街者を増やすことにつながると思います。スポーツコミッションの検討と同時に、豊田市の中で人材を育てることを考えて欲しいです。

会 長：今の意見に対して、事務局はいかがでしょうか。

事務局：ひとつの例として、10年ほど前に長崎で長崎さるく（さるく：ぶらぶら歩くの意）という、資料のイメージに近いような取り組みがありました。半年間、まち全体がパビリオンというコンセプトで行われた博覧会で、3年前から博覧会の準備と並行し、500人の観光ガイドのボランティアを育てており、結果として、今でもガイドボランティアの方がまちを案内しており、観光資源のひとつになっています。大会準備と並行し、英語の話せる人材も含めて育成できればよいと思います。

委 員：2005年に愛知万博がありましたが、その際に多くのボランティアが豊田市に登録していたと思います。その登録者の一部はいまでも残っていますが、各イベント単発で活動するのではなく、ボランティアが誇りを持って継続することができるような仕組みを豊田市でできれば、より良いおもてなしができるのではないかと思います。また、豊田市には仕事の関係で海外に赴く方が多いため、外国語のスキルや知識を持っている人がいても、ボランティアに活かす機会がないという話も聞きます。そのような人たちをうまく活用することができればと思います。

会 長：スポーツ大会自体が終わると、組織委員会は解散することが多いため、作ったネットワークは消えてしまいます。それを継続するためにはスポーツコミッションのような機能を担う組織が、登録ボランティアを各イベントで活躍できるようコーディネートしていく必要があると思います。

委 員：もし、とよたウエルカムプラザのようなものができるとすれば、そこをひとつのプラットフォームとし、まずは、2019年ラグビーワールドカップを目標にボランティアが継続して活用できるようにしていただけたらと思います。

会 長：2002年FIFAワールドカップに関わった経験から申し上げますと、本部の組織委員会から、必ず各開催地にベニュー（開催地）マネージャーが派遣され、そのベニュー（開催地）マネージャーが中心となって各地域でボランティア組織を立ち上げます。ラグビーワールドカップでは、誰がいつベニュー（開催地）マネージャーとして派遣されるかはわかりませんが、ボランティアのネットワークが継続できればよいと思います。事務局からは何か意見等がありますか。

事務局：2005年にあった愛知万博では八草駅にウエルカムプラザを設置しました。その際に登録したボランティアはおおよそ700人おり、現在では観光サポート隊と呼び180人ほどの登録があります。ただ、単発での活動が多く、商業観光課が主催するイベントの手伝いや観光案内などの活動が年間を通じてたまに入ってくるという状況です。せつかく勉強し、ボランティアになったのであれば、継続的に続けるための仕組みが必要だと実感しました。

会 長：ほかに意見はありますか。

委 員：地域のスポーツ振興にトヨタ自動車の運動部員も関わっていかねばいけないと思います。6/18にラグビースコットランド戦を控えています。先日のキリンカップでは4万2千人の観客が入ったのに対し、まだ1万枚ほどしかチケットが売れていない状況です。キリンカップ並に集客できるように、2019年に向けて段階的に取り組みをしていかねばならないと考えてい

ます。我々としてできることは、どれだけラグビーという競技を皆さんに知っていただくかということだと思います。また、2020年に東京オリンピックを控えています、今年のリオオリンピックにはトヨタ自動車の運動部員や中京大学からも選手が出ており、その選手たちをPRして2020年につなげることができればと思います。

会 長：トヨタ自動車独自の取組みをいかに地域全体に共有し連動させるかが大切だと思います。日本では試合が終わったらすぐに帰ってしまうが、スコットランドやヨーロッパでは、ラグビーの試合前後にパブに集まって店は満員というような状況があります。試合当日だけではなく、前日から店舗に集まるような状況が作れるかどうか重要です。

委 員：今回、スコットランド戦を誘致していただいて本当にありがたく思っています。来週の試合を成功させなければいけないとも思いますが、今後も継続的にビッグゲームを開催し、2019年までには、日本の豊田市に豊田スタジアムという素晴らしいスタジアムがあるということを世界に広め、豊田市に行きたいと思ってもらえるような情報発信をしていかなければならないと考えています。

委 員：富山県にはカターレ富山というサッカークラブがあり、ホームゲームの際にアウェーで来るチームのサポーターを招いて駅から観光バスで送っています。試合後、富山駅で近くの居酒屋と提携し、飲食をしてもらってから再度駅まで送るというツアーを組んでおり、これは行政でもサッカー協会所属でもない団体が行っています。そのような取組みがだんだん大きくなっていけばよいと思います。アイデアを持っている人が、アイデアレベルで終わらせるのではなく、いかに実行できるまでのマネジメントをするかということが重要であり、そのマネジメントができるような人材を育てることが大切です。2002年ワールドカップの際から言っていたことですが、ワールドカップ開催はゴールではなく、手段であり、サッカー協会のビジョンを実現するためにあると考えています。ワールドカップを開いて終わりというのでは、せっかくお金と人を費やしてイベントを開催しても、後に残るものがないと考えています。

会 長：どんなスポーツでもそうですが、レガシーを考えて、実行していかなければならないと思います。

事務局：豊田スタジアムでのグランパスの試合で、他クラブのサポーターを対象としたアウェイツアーをモデル的に実施することも現在検討しています。このような調整についても、スポーツコミッション設立後、誰が行っていくのが最適かということについて意見を頂ければと思っています。

会 長：誰かがうまくコーディネートしないといけないと思います。また、今のような話を含め、なにか、意見はありますか。

委 員：スポーツコミッションにおいて誰がいつまでに何をするかということを明確にさせる必要があるということに尽きると思います。ただ、その内容をこの委員だけで決められるのかということが心配です。

会 長：商業観光課から何か説明はありますか。

事務局：商業観光課では観光協会を法人化した方が良いのではという話があり、平成27年度に豊田市観光協会組織検討委員会を設置しています。その答申について説明致します。

～【参考資料】豊田市観光協会機能強化について（案）～

会 長：今のご説明のように、スポーツコミッションと同時並行で観光協会の機能強化の動きがありますが、連携を行なっていないともったいないと思います。ラグビーワールドカップを控え、観光協会としてもスポーツに詳しい人材を欲しているだろうとも想定されます。何かその他意見はありますか。

委 員：子供たちがラグビーについてあまり知らないため、タグラグビーを指導できるよう、市から人材を派遣してもらっていますが、サッカーと比較して、ラグビーとは距離がある感じがします。2019年のラグビーワールドカップまでに、ある程度ルールを理解させ、応援できるようにしたいと考えています。ラグビーに限らず、何か大きなスポーツイベントがある際には、同時に市民等にスポーツを楽しんでもらえるような環境を作ることができたらよいと思います。

会 長：子供の教育は重要で、極端な話をすれば、豊田市の小中学校で週に1回1学期間教えるなどしなければ、種目を実施する機会は作れないと思います。

委 員：タグラグビーの子供たちの大会を開催するまでにしたいのですが、自分たちすら理解できていない部分もあるため、早急に勉強しなければならないと思います。

委 員：ワールドカップまで日が短い中、ラグビーの普及は恣意的に行わなければ、なかなかできないのではないかと思います。応援に行く人は、前回のワールドカップを機に増えましたが、それ以上の広がりがないのは事実で、やはり小学校の頃から教えていくということが必要なのではないかと思います。

会 長：子供たちへのスポーツ環境ということですが、教育委員会のほうはいかがでしょう。

事務局：日本ラグビー協会から、長期休み中のタグラグビー教室の開催、中学校の学校開放を利用した中学生向けラグビー教室の開催、高校生女子に限ったラグビーの海外視察の3つに関して、豊田市で協力できるものがあればしてほしいという願いがあり、中学校へ話をもちかけたところ、中学生向けラグビー教室の開催について積極的に協力していただけるということでした。今後、詳細を日本ラグビー協会、文科省、スポーツ庁と話を詰める予定です。単発ではありますが、そこから広がりを持たせることができるように、頑張っていきたいと思っています。スポーツ推進委員については、講習会を開催し、100名ほどの参加がありました。この講習会を重ね、スポーツ推進委員の各活動領域においてタグラグビーの普及に努めてもらい、青年会議所が開催している教室にアシスタントとしてスポーツ推進委員についてももらえるよう協力してやっていきたいと思っています。

事務局：補足になりますが、豊田市がラグビーワールドカップ開催地に当選した際に市長とともに森元首相と懇談して、ぜひタグラグビーを普及してほしいという話もありました。小学校におけるタグラグビーの普及は、教育委員会、教育現場も乗り気になっており、昨年度は中学校で50校程度、今年度は、市内ほぼ全中学校に当たる100校弱で授業が行われています。しかし、学校現場の意見を聞くと、指導者がいないことがネックであるとのことでした。スポーツ推進委員の皆様がやる気になってくださることは非常にありがたいし、トヨタ自動車、豊田市ラグビー協会などからの指導者派遣に期待しています。また、1校で1クラスではなく、全クラスで授業を行い、タグラグビーを楽しむ子供の数をもっと増やしていきたいと思っています。

会 長：授業回数はどれくらいなのでしょう。

事務局：授業回数は5～6回程度で、教育委員会としてはかなり積極的に取り組んでいると思っています。

会 長：野球の授業を5回行った、読売ジャイアンツと世田谷区が連携した調査によると、1回やるより2回やるほうが、特に技術の進歩はみられないが、「野球が楽しくなった」とする回答は確実

に増えるという結果が出ています。豊田市でも指導者を派遣することで教員の教える授業がより良くなることが考えられます。

事務局：豊田市の子供の中ではフットサルやドッジボールが非常に盛んで、2001年に豊田スタジアムを作る際にフットサルを普及しようと中心的に動いた方がスポーツ推進委員となっており、ラグビーの普及に尽力していただこうと協力を仰いでいる最中でもあります。

委員：ラグビー日本代表キャップを持っているような人材は豊田市内に複数いらっしゃいます。そういった方達の力を借りながらの普及活動というのは非常に大事であると思います。

委員：私は、先ほどお話があった、ボランティアの育成ということに取り組んでいます。昨年度から特に英語でボランティアができる人材を育てようと外国人教師を紹介していただき、毎週英会話教室を開催しています。ボランティアに特化した英会話を習得するというので募集をし、大勢の方に来ていただいています。教室への参加は難しくなっても、登録は継続する方もいます。また、参加者のレベルはあがっても実践する場がないために不安を覚える参加者もいたため、6/18 スコットランド戦の際に自分たちで街に出て活動する予定です。会場周辺を点で考えるのではなく、駅から会場まで、駅周辺の店舗など、もっと面で活動をし、おもてなしをしたいと考えています。誰かに機会を作ってもらのではなく、自分たちで機会を作ろうと、フェイスブックでグループを立ち上げたりと、動き始めています。そこにボランティアをしたいという方を招き、多くの方を巻き込んでいきたいです。そのなかで、やはり人材の育成が重要であると考えています。マラソンを例に挙げると、「給水所のスタッフは給水をしてもらえればいい」とだけ考えるのではなく、走っている人がどんな思いで参加しているのかを理解し、「頑張ってください」「豊田市によろこそ」と声をかけておもてなしをする気持ちも持って活動してもらえよう研修を行っていきたいです。様々な人が意見・アイデアを出し合うことで、多くのことができるようになるのではないかと考えています。

会長：スポーツの言葉は特殊なものが多いため、東京オリンピック・パラリンピックにむけ神田外語大学ではスポーツ語学に精通した、代表チームの監督の通訳ができるような人材育成に取り組んでいます。

委員：委員の皆様は各専門領域での具体的な活動例を紹介いただけていますが、区長会として例を挙げると、私の担当している井郷地区では、いさとスポーツクラブという団体があり、活発に活動をしています。また、区長会は今後、市内の各地域をどのように結び付けていくかということを考えております。

これからのスポーツコミッションの展開を考えると、ラグビーワールドカップやオリンピックを焦点にあてた短期的な活動と、これからの豊田市のスポーツをどのようにしていくかという長期的な視点があると思います。短期的な活動については、時間が少ないこともあり、すべてが完成した状態ではなく、徐々に進めながら取り組んでいかなければならないと思いますし、その進行状況がもっと見えるようにできたらいいと思います。

特にスポーツ推進審議会が教育委員会の所管であるため、先ほどラグビーの話が出ましたが、教育の一環としてのスポーツという捉え方で子供たちへの指導、スポーツ環境をどうしていくかということも考えていくべきだと思います。きれいごとだけではうまくいかないので、活動をするには人間を動かさなければいけないですし、そのためには交通アクセスは切っても切り離せないです。商業観光課や旅行事業者とタイアップできるかどうかということもぜひ考えていきたいと思っています。



会 長：豊田市民のスポーツ実施率は上がったのか、テレビや会場で観戦することは増えたのか、スポーツに関わるボランティアは増えたのか、指導者や審判の数は増えたのか、そのような数字を押さえておかなければならないと思います。イベントには一時的な波及効果があると思いますが、豊田市のスポーツ環境がどう変わったのかが大切です。イベントをやるだけで疲れてしまっただけでは仕方がないので、事務局は、ぜひそのような基礎データを取ってほしいと思います。

委 員：第一期の活動で地域メディアの連携からラグビーの市民への浸透に協力ができるのではないかと考えています。どのくらいの時期からラグビーワールドカップ 2019 の PR をしていくか考えましたが、大会間近では市民へ浸透しきれないと思われるため、たとえば、ラジオラヴィート、朝昼晩のコーナーで定期的に聞かせることで、PR していったらよいのではと思います。また、視覚でもラグビーワールドカップに関してどんな動きがあるのか、市全体で見える化し、具体的に決まっていないう段階であっても盛り上がり誘うようにした方がよいと思います。また、海外客向けガイドボランティアも必要だと思いますが、障害を持った方々に対応できるボランティアの配置など、福祉面に関しても力を入れていかなければならないのではと考えています。奉仕員という、手話などで聴覚障害者の手助けをする人たちがおり、私もその奉仕員のプログラムを受けましたが、プログラムを受けた人のなかには、手話を使う機会がないという方も多くいます。今後、スポーツコミッションの展開の中で、奉仕員を組み込んでいくのはどうでしょうか。

会 長：メディアを通じたプロモーションはしっかり考えて行かなければならないことです。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ソーシャルメディアなどを駆使し、「ハイブリッドスポーツシティ豊田」を市民に浸透させる必要があると思います。たとえば、車で豊田市に入った際、カーナビから『「ハイブリッドスポーツシティ豊田」に入りました。』というような案内が出るなど、様々な企業との連携が考えられると思います。

委 員：プロモーションに関しては、サッカー協会でも特に苦勞する部分です。今の内容では市民に訴える際固いイメージがあるので、たとえば、「日本一スポーツで幸せに」とか一般の人にわかりやすい言葉を使った方がよいのではないのでしょうか。

会 長：今日の会議だけでは気付かない部分や、この場では言いにくい点もあると思うので、委員の皆様から事務局に意見を寄せていただき、次の審議会までにまとめていただければと思います。

委 員：このスポーツコミッションに関して多くの税金を使うこととなりますが、一度、市民に対して、豊田スタジアムに行ったことがあるか、何回行ったことがあるのか、行ったことがなければ行かない理由は何なのかということデータをとりとるべきではないのでしょうか。そのデータを根拠として、スポーツコミッションの内容の組み立てを行った方がよいのではないかと思います。

会 長：その通りだと思います。たくさんの方が来ているように見えて、固定の一部の客がスタジアムを利用しているのではないかという思いもあります。新たな利用客をどうやって広げていくかを考えなければならぬため、そのようなデータは必要です。実態がわからなければ、議論ができないのでまずは実態を把握するべきで、市民のスポーツとの関わりを多面的に調査しなければなりません。若者から老人まで様々な年齢層を調べることができればよいと思います。

委 員：また、仕事によっては利用できないこともあるかと思うので、業種など調査したらよいのではないのでしょうか。市民に見に来てくださいと頼んで来てもらうよりも、自然に来てもらえるような環境づくりをしなければ動員に負担がかかります。今後、本当に喜んでスタジアムへ足を

運んでもらえるようなゲームをやらなければなりません、ビッグゲームであっても入場券が売れないといった状況もあります。何が原因なのかということ調べないと観客数増加には結びつかないと思います。

委員：調査を行う際には区長会を利用していただければと思います。全市民は難しいかもしれませんが、抽出を行い、調査ができると思います。

会長：しっかりとデータを把握することは非常に重要な点であり、今後の検討においても十分に考慮すべきだと思います。

以上